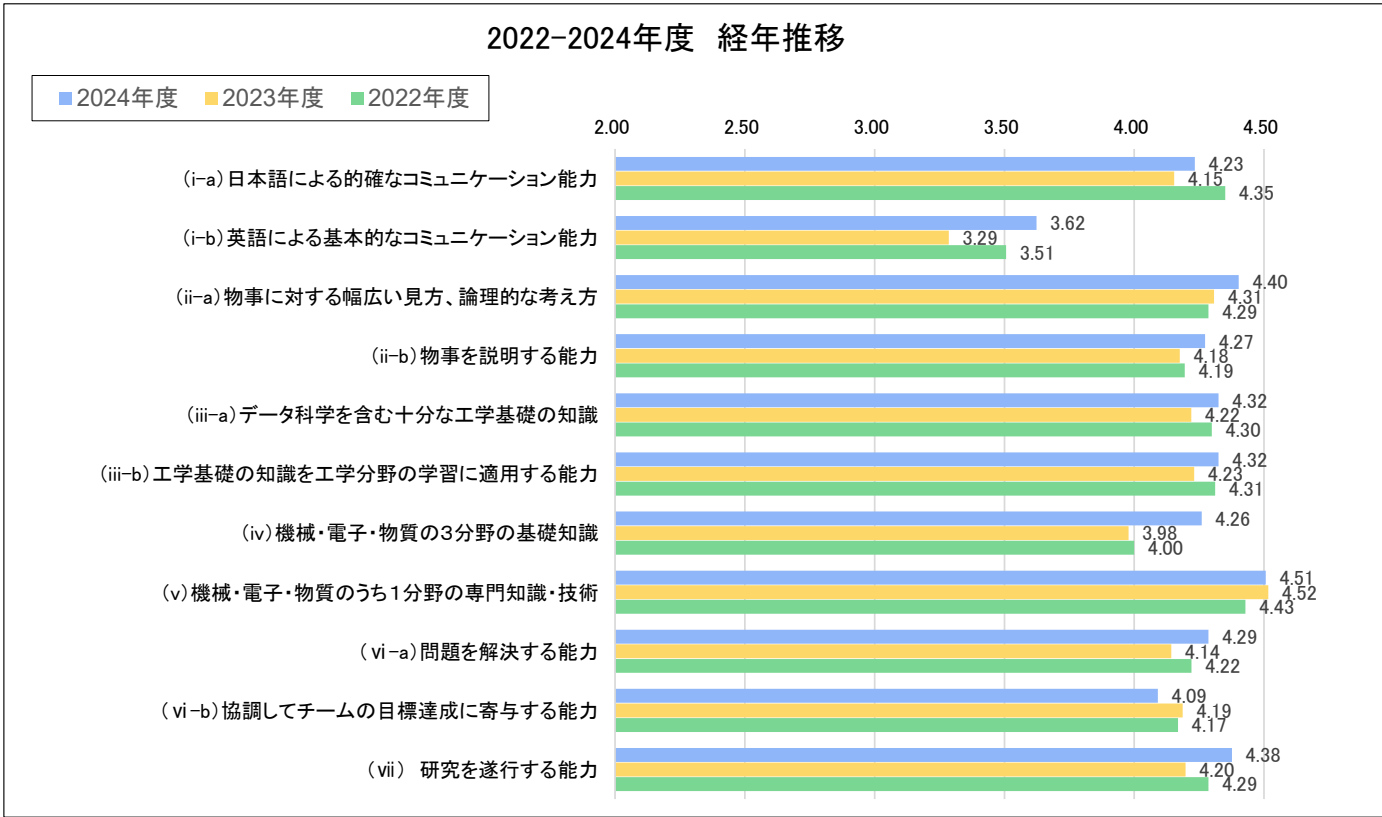


2024年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

【設問】大学生生活全般を振り返り、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。(2025年3月調査実施)

＜主な活動・出来事＞
1年次全寮制、講義・演習・実験・実習科目、教養科目、単位互換科目、英語科目、工学基礎科目、専門科目、学外実習、主専攻・副専攻履修、定期試験、レポート作成、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、海外英語演習、課外活動(同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ)、アカデミックアドバイザー・指導教員の指導、課題研究・卒業研究、研究発表会、学会発表、論文投稿、就職活動 など

【回答集計】							
2024年度							
	回答率86%(回答者数77名／卒業者数90名)						
	身についた (5点)	まあ身についた (4点)	どちらとも言えない (3点)	あまり身につかなかった (2点)	身につかなかった (1点)	回答者数 (人)	平均 (5段階評価点)
(i-a) 日本語による的確なコミュニケーション能力	31	37	6	2	1	77	4.23
(i-b) 英語による基本的なコミュニケーション能力	14	34	17	10	2	77	3.62
(ii-a) 物事に対する幅広い見方、論理的な考え方	36	37	3	1	0	77	4.40
(ii-b) 物事を説明する能力	32	35	9	1	0	77	4.27
(iii-a) データ科学を含む十分な工学基礎の知識	32	38	7	0	0	77	4.32
(iii-b) 工学基礎の知識を工学分野の学習に適用する能力	33	36	8	0	0	77	4.32
(iv) 機械・電子・物質の3分野の基礎知識	28	41	8	0	0	77	4.26
(v) 機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	39	38	0	0	0	77	4.51
(vi-a) 問題を解決する能力	32	37	6	2	0	77	4.29
(vi-b) 協調してチームの目標達成に寄与する能力	29	30	14	4	0	77	4.09
(vii) 研究を遂行する能力	39	30	6	2	0	77	4.38



【結果まとめ】

- ・2024年度卒業生は、2021年度入学で在学中コロナ禍のオンライン対応(2020年度)がない世代
※2023年度卒業生は学部1年次、2022年度卒業生は学部2年次にコロナ禍のオンライン対応を経験
- ・総じて評価が過去2年と比べて高かった。※特に(ii-a)、(ii-b)、(iv)、(vii)の評価が高かった。
- ・英語能力を除く評価はいずれも4.0以上で、学修成果が高いと言える。
- ・(i-b) 英語による基本的なコミュニケーション能力が他の項目に比べ評価が低いのは例年と同様の傾向。
他団体の調査でも英語能力に関しては、一律に低い傾向がみられる。英語の能力に対する理想が高いのが一因か。